

思川開発事業監理協議会資料

平成31年3月15日

独立行政法人 水資源機構

事業進捗状況(平成31年3月時点※)

※見込みのため、数値が変更となる場合があります。

○ 平成30年度予算額 25.4億円(累計 約935億円※ 進捗率約51%)

累計額は、平成28年度までは精算額。
平成29年度は予算額。

補償基準他	H13.12 損失補償基準妥結・協定書調印	
用地取得(南摩ダム) (372ha)	99%(371ha)	
用地取得(導水路) (3.159ha)区分地上権設定含む	100%(3.159ha)	
家屋移転(80世帯)	100%(80世帯)	
代替地造成	100%(31世帯)	
県道改良(約13.2km)	100%(13.2km)	
付替県道(約6.4km)	72%(4.6km)	83%(5.3km)
付替林道(約24.4km)	7%(1.6km)	18%(4.3km)
ダム本体及び関連工事	<pre> graph LR A[仮排水路トンネル (H23.3完成)] --> B[準備工事 ダムサイト伐採 建設発生土受入地整備] B --> C[基礎掘削] C --> D[ダム本体工] D --> E[管理設備] E --> F[試験湛水] </pre>	
導水路、送水路 及び関連工事	<pre> graph LR A[黒川取水・放流工 大芦川取水・放流工] --- B[黒川導水路 大芦川導水路] B --- C[南摩注水工] C --- D[送水路] D --- E[南摩機場] </pre>	

完成 契約 --- 付替道路 完成 契約 --- ダム本体及び関連工事

完成：工事が完成した道路延長比（未供用を含む。舗装、付帯設備の未施工を含む）
契約：工事を契約した道路延長比

工事実施状況

③ 建設発生土受入地整備工事（地下排水管施工中）



② ダムサイト伐採工事（施工中）



① 付替県道交差点工事（H31.2竣工）



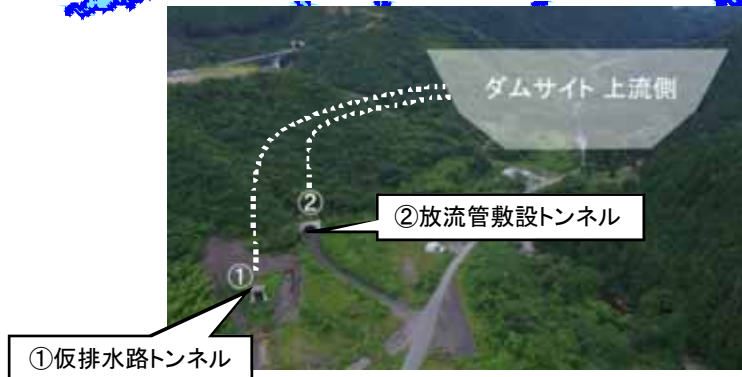
④ 付替県道5号橋工事（H29.12竣工）



⑤ 付替県道1号トンネル工事（H24.8竣工）



⑥ 仮排水・放流管敷設トンネル呑口（上流側坑口）（H23.3竣工）



⑦ 集団移転地



H30年度実施概要

項目	主な内容
工 事	ダム本体関連準備工事 ダムサイト伐採工事、建設発生土受入地整備工事 等
	付替県道工事 1号橋下部工工事、2号橋下部工工事、栗沢3工区他工事 等
	付替林道工事 笹之越路3工区工事、西ノ入下流3工区他工事、沢ノ入4工区工事 等
業 務	水理水文調査、環境調査、設計業務、用地補償 等

(1) 工 事

1) ダム本体関連準備工事

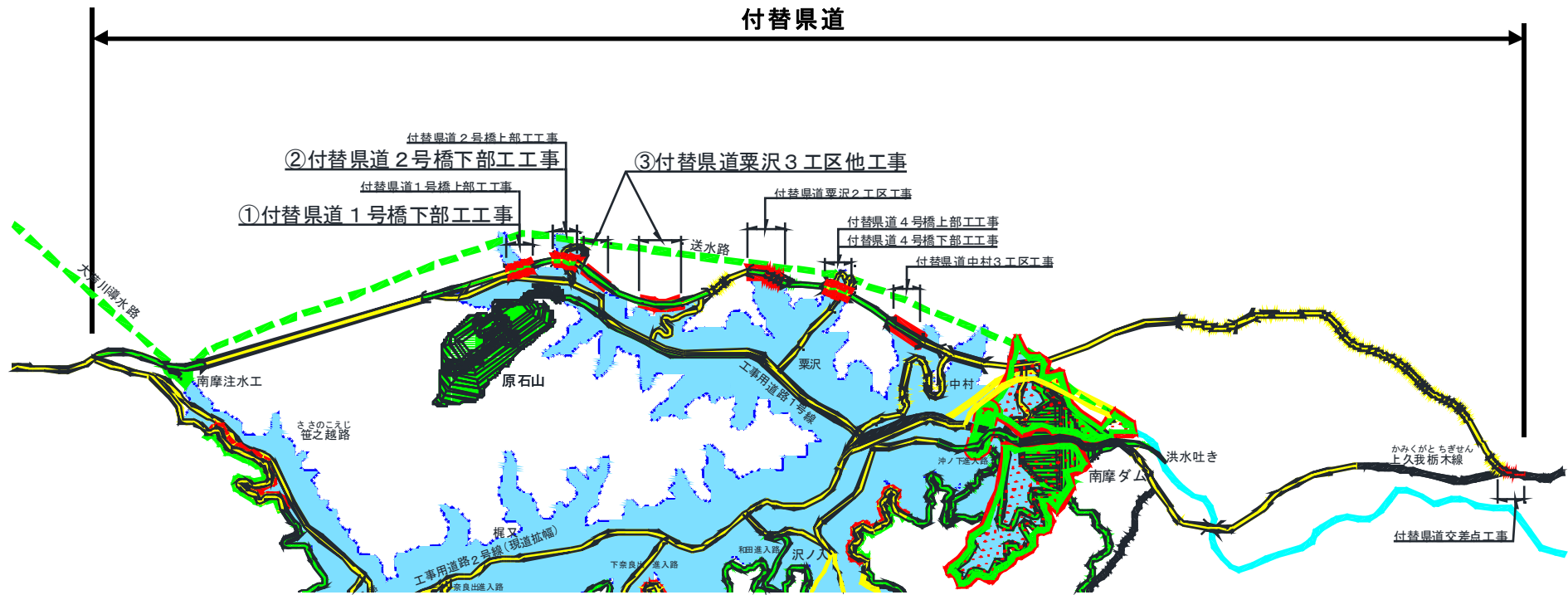


①ダムサイト伐採状況
(平成31年2月)



②建設発生土受入地整備
地下排水管設置状況
(平成31年2月)

2) 付替県道工事



①「付替県道1号橋下部工工事」



施工中
(平成31年2月)

②「付替県道2号橋下部工工事」



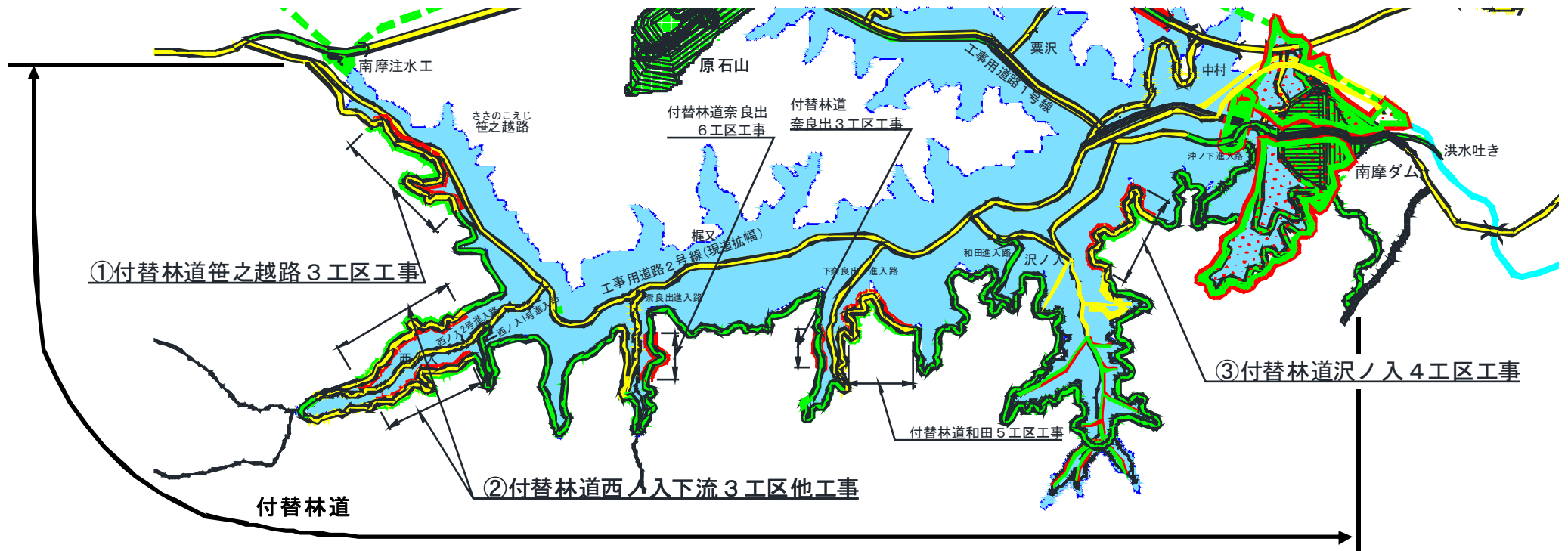
施工中
(平成31年2月)

③「付替粟沢3工区他工事」



施工中
(平成31年2月)

3) 付替林道工事



① 「付替林道笹之越路3工区工事」



施工中
(平成31年2月)

② 「付替林道西ノ入下流3工区他工事」



施工中
(平成31年2月)

③ 「付替林道沢ノ入4工区工事」



施工中
(平成31年2月)

(2) 業 務

① 流量観測

・ダム・導水路計画に必要な水文データ蓄積のために河川の水位・流量観測を行い、河川流況の基礎資料を収集するもの。



② 地下水位等観測

・ダム本体工事、導水路工事に伴う地下水(井戸水)・沢水等への影響を検討するための基礎資料を収集するもの。



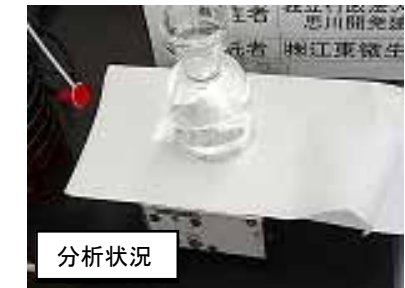
③ 自然環境調査 (貯水池内)

・思川開発事業の事業区域およびその周辺を対象として、動植物調査を継続的に実施することにより、自然環境への影響把握を行うとともに、付替県道工事などに対する環境保全対策の検討・立案のために必要な調査を行うもの。



④ 水質分析

・思川開発事業の実施に伴い、関連する5河川(黒川、大芦川、荒井川、南摩川、思川)の水質を経年的に把握するため、採水及び水質分析を行うもの。



⑤ 導水施設設計業務

・思川開発事業における導水施設(導水路、送水路及び取水放流工等)の実施に必要な詳細設計を行うもの。

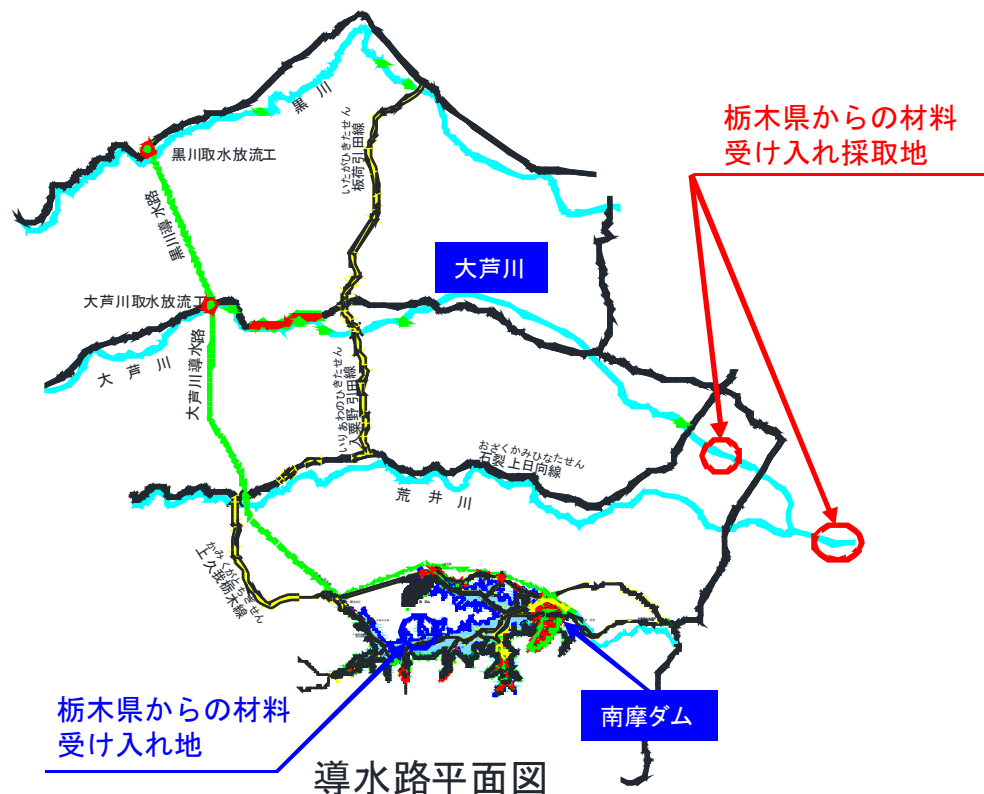
工事①【コスト減】ダム堤体材料の他機関からの受け入れによる縮減について

コスト減・・・南摩ダム堤体材料(トランジション材)の他機関からの受け入れによる縮減 (27百万円 減)

・南摩ダムの堤体材料であるトランジション材には河床砂礫を用いる計画としている。その材料の調達は、黒川・大芦川より自ら採取・運搬する計画としていた。

その採取予定地である大芦川において、河川管理者(栃木県)が河川整備の一環として大規模な河道掘削を実施しており、その発生土のうち堤体材料として用いることができる河床砂礫を受け入れることによりコスト縮減を図った。

次年度以降も、栃木県と受け入れに向けた調整を引き続き行う予定。

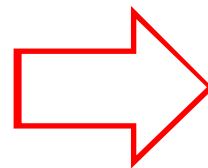


工事②【コスト減】付替林道工事における擁壁構造の変更による縮減について

コスト減・・・路側擁壁の構造変更による減（17百万円 減）

工事名：付替林道西ノ入下流3工区他工事

- ・付替林道は、狭隘な箇所には幅員3.5mの道路を構築するという厳しい条件での施工となる。
当初、路側構造物については一般的な重力式擁壁及び補強土壁工法を計画していたが、新技術（NETIS登録）を活用し、安全性・施工性の向上及び経済性に優れた鋼製L型擁壁を採用することでコスト縮減を図った。



工事③【コスト減】付替林道工事の道路線形変更(ショートカット)による縮減について

コスト減・・・道路線形変更による減 (21百万円 減)

工事名：付替林道沢ノ入4工区他工事

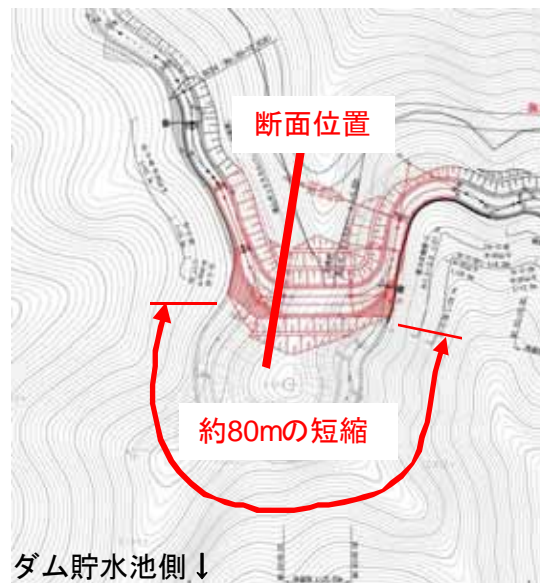
当初は切盛主体（路側は構造物）の構造で計画していたが、伐採後の起工測量の結果、路側構造物範囲が増大しコスト増となることから、道路線形を見直すとともに切土主体へ構造を変更し、延長を約80m短縮することでコスト縮減を図る。

平面図

当初

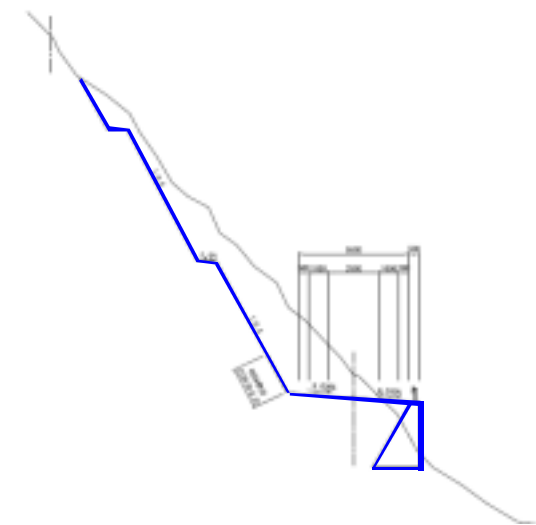


変更



横断図

当初



変更

